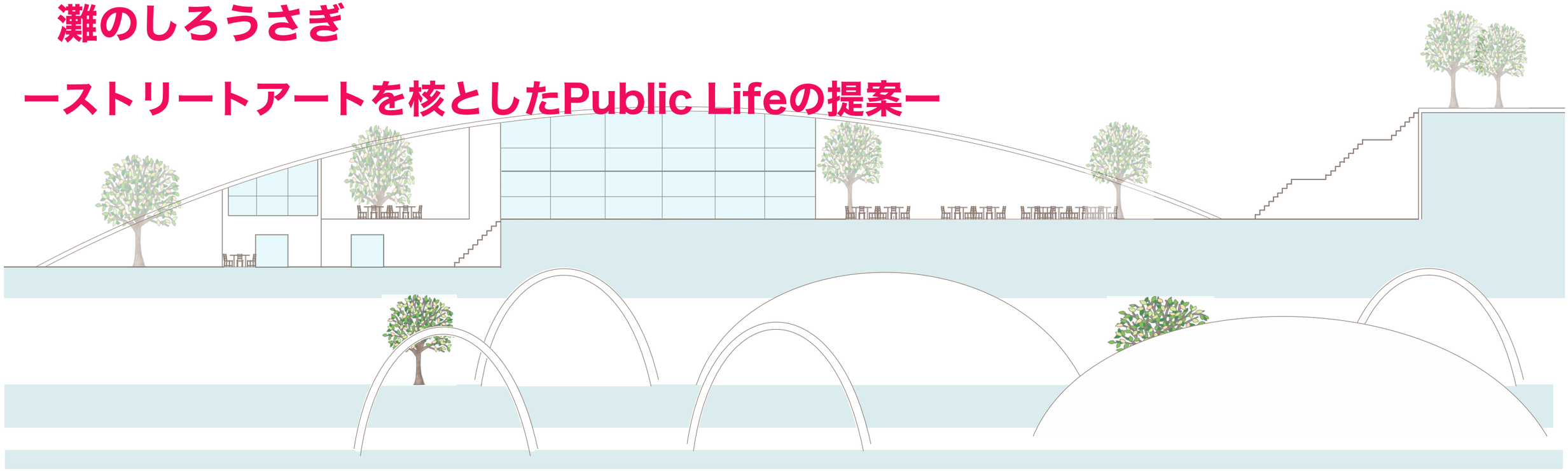
灘のしろうさぎ

ーストリートアートを核としたPublic Lifeの提案ー



○「芸術文化立県“ひょうご”」

平成13年より、兵庫県では「芸術文化立県“ひょうご”」の実現を目指して、さまざまな芸術文化施 策を展開している。 また、日本人県民と外国人県民とが異なる文化や生活習慣などを受け入れる多文化共生社会を目指し、国際交流等の推進にも取り組んでいる。

「芸術・国際交流」をキーワードとしたとき、「ストリートアート」の持つ力に注目した。

○ストリートアート

「言葉を必要としない社会とのコミュニケーション」

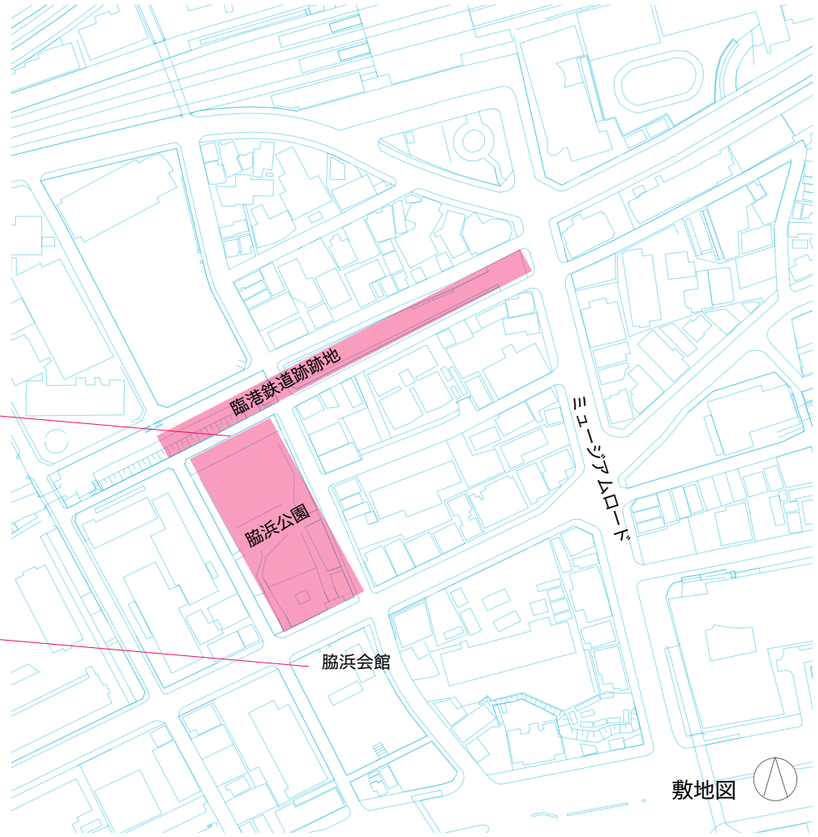
ストリートカルチャーの中に、「リスペクト」という文化がある。これは、良いものは残り、そうでないものは消えゆく、というシンプルなものだが、それをジャッジするのが、通りを通る全ての人々というのが特徴だ。不特定多数の人々は、言い換えると「社会」そのものであり、そこで評価を受ける為にはどう工夫すれば良いか、相手を不快にさせず、自分を表現する方法に取り組むその過程は、社会とのコミュニケーションそのものではないだろうかと考えた。

○対象敷地と提案内容

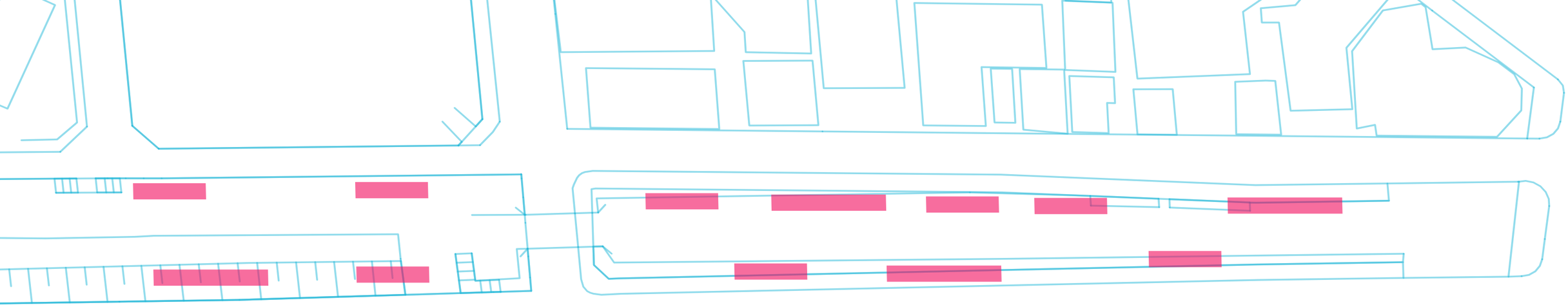
地域の憩いの場である「脇浜公園、脇浜会館」を終着点に、ミュージアムロードから「臨港鉄道跡跡地」を結ぶ提案である。

現在、臨港鉄道跡跡地と脇浜公園は直接的なリンクがなされていない状態となっている

脇浜会館



敷地図



配置図

○A（現：臨港鉄道跡跡地）

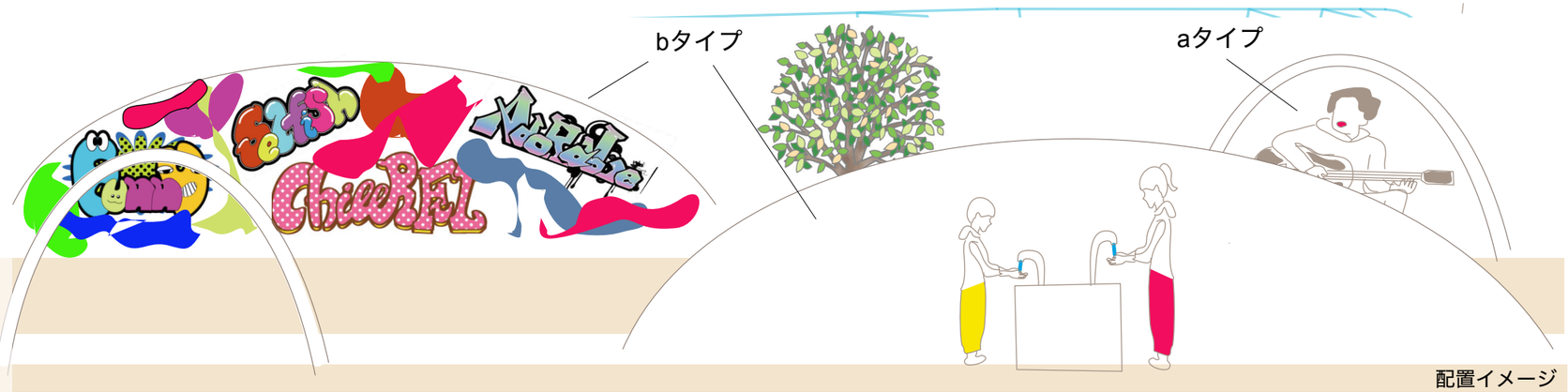
「通勤通学風景に、ストリートアートを」

現在のミュージアムロードは、アートを鑑賞して楽しむというスタイルが主であり、地域の外内問わず、誰もが楽しめるというのが魅力であると感じている。

しかし、美術館やミュージアムロードといった地域資源の活性化を続けるには、地域住民からのサポートが不可欠である。

そこで、地域住民にアートをより身近に感じてもらうために、アーティストとの交流が持てる場、アートを体験できる場をつくりたいと考えた。

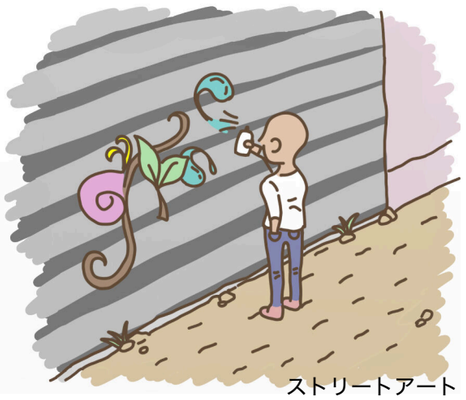
そしてこのような場を、通勤通学路として利用される臨港鉄道跡跡地に設けることで、地域とアートが結びつき、美術館、ミュージアムロードが長くに渡って愛され続けることを期待した。



配置イメージ

路上パフォーマンス

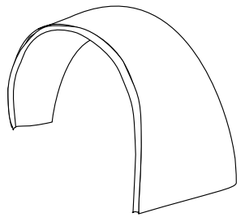
路上ライブ



ストリートアート

マルシェ

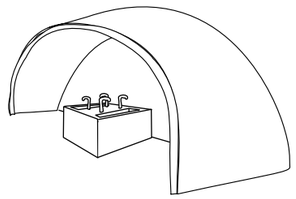
aタイプ



アーチ

ライブやパフォーマンスを行う

bタイプ



洗い場

背面は壁画のための壁となっている

ここでのアクティビティ

ストリートアートとして以下のようなアクティビティを設定した

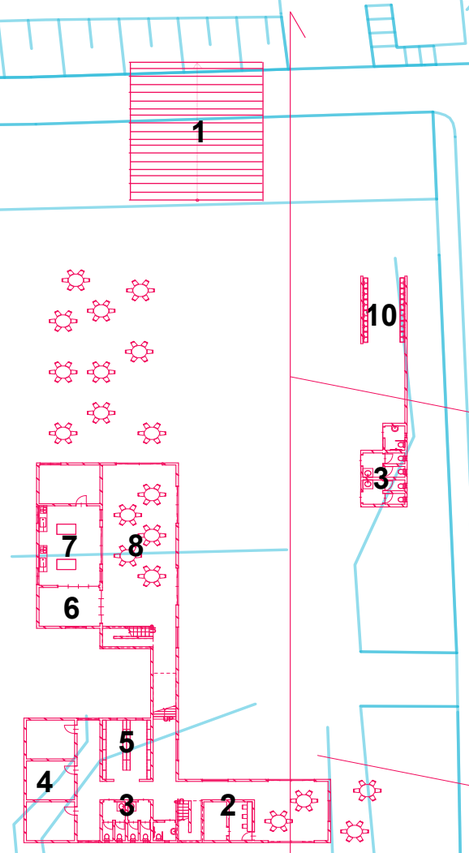
- ●壁画
- ●路上ライブ
- ●路上パフォーマンス
- ●マルシェ

ミュージアムロードからの眺め

○B（現：脇浜公園）

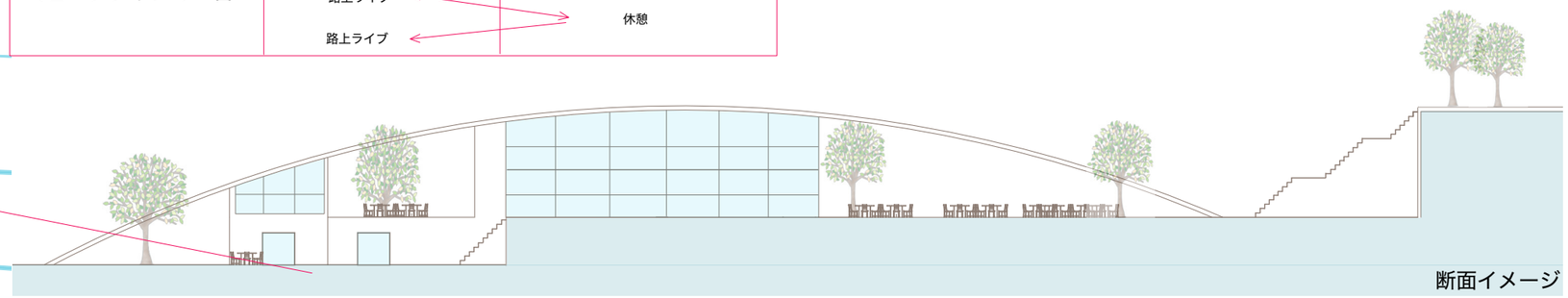
「アーティストと地域住民の憩いの場　ー脇浜会館との連携ー」

現在脇浜公園にある脇浜会館では、書道教室やヨガ教室など住民たちの活動が盛んに行われている。
そこで、現在の脇浜会館の活性化とともに、A（現：臨港鉄道跡跡地）で行われるアクティビティをサポートする場を提案する。

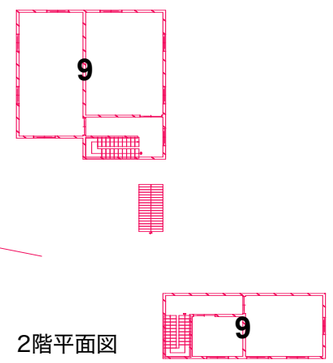


1 階平面図
（イメージ）

路上 ミュージシャンの一日	場所	A（現：臨港鉄道跡跡地）	B（現：脇浜公園）
		路上ライブ 路上ライブ	コインロッカーに荷物を預ける ↓ 防音室で練習 休憩



断面イメージ



2階平面図

1：ステージ階段
2：会館受付
3：トイレ
4：防音室
5：コインロッカー
6：和室
7：貸キッチン
8：貸ギャラリー兼休憩所
9：レッスンスタジオ
10：洗い場

○20年後のミュージアムロードと周辺地域

「アートと多文化共生」

この場所での様々なストリートアートを通して国籍、年齢関係のないコミュニケーションを重ねていくことで、
ミュージアムロード周辺がアートに支えられ、アートを支える地域となること、誰もが快適に過ごせる多文化が共生し合う地域となることを期待する。

ステージ階段

臨港鉄道跡跡地と脇浜公園をリンクさせる為に、ステージにもなる大階段を設置する。
ステージでは、会館で活動している人々の発表の場となると共に、普段は臨港鉄道跡跡地を通る人の公園、臨港鉄道跡跡地の通りを利用する人々の憩いの場となる。

灘の白うさぎたちに導かれて、
魅力溢れるこの地域がアートと共存し
多文化共生社会へと益々の発展を遂げていくことを願っている。